

教育振興基本計画に基づいた取組

大阪市教育委員会教育政策課

電話：(06)-6208-9027

令和7年3月26日 第9号

体力・運動能力向上のための取組の推進

【教育振興基本計画での位置づけ】

最重要目標2	基本的な方向5	施策5-1	掲載ページ	
未来を切り拓く 学力・体力の向上	健やかな体の育成	体力・運動能力向上のための取組の推進	第1編 P13	第2編 P38

◎体力は人間の活動の源であり、健康の維持といった身体面のほか、意欲や気力といった精神面の充実にも大きく関わっています。このため、子どもの頃から各教育段階に応じた運動をする機会の提供と個に応じた指導の充実を図ることで、健やかな体を持ち、生涯にわたり運動やスポーツに親しめる人材を育成します。

施策目標		令和3年度末 (2021年度末)	令和7年度末 (2025年度末)
「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合（%）【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】	小学校	59.1%	62.6%
	中学校	49.0%	53.6%
「1週間の総運動時間」が60分未満の児童生徒の割合（%）【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】	小学校	17.2%	12.1%
	中学校	18.3%	15.7%

目標に対する現状、課題、取り組みの紹介など

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、質問紙にある「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合が小学校では**63.8%**、中学校では**53.3%**となった。小学校では令和7年度末の目標値よりも高く、中学校でも目標値に近い値が出ています。しかし、「1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合」に対しては、小学校**15.4%**、中学校**20.1%**となっており、中でも特に、中学校女子の割合が高く、課題となっています。

また、子どもの体力向上推進委員会では、ゴールデンエイジ（10歳前後）までの運動経験の重要性が話し合われており、「1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合」が低い中学校からは、小学校からの運動習慣の定着が来ていることが1つの要因であるとの意見がありました。

これらの結果を受け、保健体育担当では、幼稚園から運動に親しむことで、「運動が好き」な子どもを増やすことを改善策と考え、【中大淀幼稚園・大淀小学校×セレッソ大阪アスレチックパーク】に取り組みました。

【中大淀幼稚園・大淀小学校×セレッソ大阪アスレチックパーク】

このプログラムは、セレッソ大阪スポーツクラブの協力のもと、子どもたちが楽しみながら、体を動かすことができる運動プログラムで、「はしる」「なげる」「とぶ」などの基本運動スキルを、遊びを通して身につけるためのものです。

今年度より幼小併設校での取り組みとして実施し、来年度も継続して実施する予定です。



実施対象幼稚園 4歳児、5歳児 小学校 1年生、3年生

実施期間 月1回程度（幼稚園：30分程度 小学校45分程度）

実施内容 幼稚園：用具を使いながら、色々な動きができる運動遊びの紹介
小学校：休み時間に子どもたちだけでも遊べるようにするため用具を使わない運動遊びの紹介



運動遊びについては、令和6年11月に実施した教員実技研修会でも紹介し、年度末にはSKIPポータルに掲載する「子どもの体力向上推進プログラム」の中でも、取り組みを紹介します。

「運動が好き」な割合が増えること・「1週間の総運動時間が60分未満」の割合が減ることは、結果として、大阪市の児童生徒の体力向上だけでなく、豊かなスポーツライフ、将来の健康的な生活にもつながると考えています。

